HDS-R｜結果・実施条件の記録

STROKE LAB 独自記録補助票 ／ A4縦・全2ページ

正式な検査用紙・採点表ではありません。本票だけではHDS-Rを実施・採点できません。所定の用紙・手引きで実施した結果を転記し、条件と所見を整理してください。

対象者ID：　　評価日：　　年　　月　　日

開始時刻：　　終了時刻：　　評価者・職種：

使用用紙・手引き／版：

回答者：本人　　同席者・関係：　　本人への説明・了解：

1　実施条件・回答に影響した要因

場所・姿勢／眼鏡・補聴器／使用言語／聞こえ・見え方／言語症状
睡眠・疲労・疼痛・気分／服薬など、確認した内容を記入

2　所定用紙からの結果転記

HDS-R合計：　　／30点　　または　算出せず（理由は下欄）

実施状況：完了・規定の打ち切りあり・中断・その他（　　）

前回：　　年　　月　　日　　／30点　　比較可能性：

実施不能・拒否・中断を認知機能による不正答と混同しません。欠損を独自に0点や平均値で補わず、換算点も作りません。規定内の打ち切りは所定の採点規則に従います。

3　項目別所見・実施不能／中断の理由

項目番号、実際の返答、ヒントの有無、手順からの変更等

参照先

日本老年医学会掲載用紙（外部資料）
https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/tool/pdf/tool_05.pdf

HDS-R：加藤伸司ほか．老年精神医学雑誌 1991;2(11):1339–1347.

HDS-R｜生活・支援への接続

尺度の得点とは別に、確認した生活情報を記録します。

対象者ID：	記録日：　　年　　月　　日
記録者：	情報提供者・本人との関係：

1　本人が困っていること・希望

2　生活で確認した事実

本人の発言、家族等からの情報、直接観察を区別します。推測は事実と分けて記載します。

場面・日時	情報源	具体的に起きたこと／できたこと

3　支援の試行と確認方法

本人と決めた目標	環境・声かけ等の工夫	担当・確認時期

4　医療チームへの共有・再評価

共有先・日時／相談内容／再評価の目的・条件

20点以下はスクリーニング上の目安であり、診断そのものではありません。21点以上でも生活上の変化があれば確認を続けます。急な変化は通常の再検査を待たず医療チームへ共有します。

実施法：加藤伸司．老年臨床心理学研究 2023;4:47–55. DOI:10.50944/jjcgp.4.0_47
本票の欄は独自の支援記録で、HDS-Rの追加項目や得点ではありません。
編集：STROKE LAB／2026年11月／2 of 2